

【現行】しゅうなんブランド制度

【目的】地域特性を活用し農業をはじめとする第一次産業の振興と地域経済の活性化を図る。

認定品

目標値：認定商品100品

手法 情報発信＋極の認定

極

農林水産物及び加工品

成果

事業者の意向があれば登録
(PR強化等への協力意思)

- 小規模な事業者・ロットが小さい商品に光があたり「生産意欲の向上」が図れた
- 認定を目指した新商品開発が行われるなど市内産品の利用拡大が図れた
- 鹿野ファームを軸にしたイベント開催などを通じて「しゅうなんブランド」全体のPRが図れた

課題

- 魅力的な商品が少ない
- ▲商品を購入できる店が限定される
- 認定数が多く特別感が薄い
- ★小規模事業者は販路拡大の必要性が低い
- ★高齢化等による生産拡大意欲の低下
- PR不足
- シール貼付が手間・効果がない

事業展開にて実施

移行

【新】しゅうなんブランド制度 案

【目的】周南市産農林水産物の消費や付加価値の拡大を通じて、生産者の所得向上、中期的にしゅうなんの知名度アップを図る。

登録品

5年後目標値：登録商品100品

手法 情報発信ツールの拡大・内容の充実

極

農林水産物及び加工品

登録方法

申請に基づいて市で書類確認
(これまでは協議会で審査)

登録要件

基準、対象商品及び申請者は現行どおり

- 意欲ある事業者の商品を多く登録

選考品

5年後目標値：(既存商品)売上額2倍以上、(新商品)事業者の掲げる目標

手法 情報発信ツールの拡大・内容の充実＋販売促進の取組

商品

①対象商品

全ての商品（毎年テーマを設定）

例 令和7年度 お土産品（職場、友人などへの手土産げ用）

②申請者

販売者、製造者（法人、個人問わず）

③対象要件

考え方 市内産品の使用量要件を登録基準より低く、市場性を重視し、幅広い商品を対象にする。

販売数増加により地域産品の消費拡大を図る。

要件は毎年テーマにより調整

例 【素材】以下のいずれかの要件を満たしていること

- ・最も分量の多い原材料が51%以上周南市産
- ・メインの部分となる原材料が100%周南市産
- ・メインの部分にしゅうなんブランド登録品を使用

【市場性・将来性】生産拡大していく計画があるか

その他【信頼性・安全性】、【周南市らしさ】、【品質性】

④選考方法

事業者によるプレゼン＋試食

年1品

⑤選考者

協議会員・市民・（市長・議長・教育長＋α）にて審査を行い協議会が決定

※+αは、募集対象品に応じて相応しい人を追加

事業展開の一部として活用

解決策

●周南市産100%という要件が多様な商品づくりのハードルとなっている

▲時期や製造できる数が限定的な商品が多い

■素材要件を満たせば認定してきた